

機能仕様: OCR検索可能PDF変換Webアプリ

機能ブランド: 981-OCR-PDF-Converter

作成日: 2026-1-15

ステータス: 実装完了 (1.0.0)

説明: スキャンPDFを複数OCRエンジン (OnnxOCR 2025.5、PaddleOCR 2.7.0.3) で並列処理し、最高精度結果を検索可能PDFに変換するWebアプリケーション

技術スタック概要

バックエンド (Python 3.10.11)

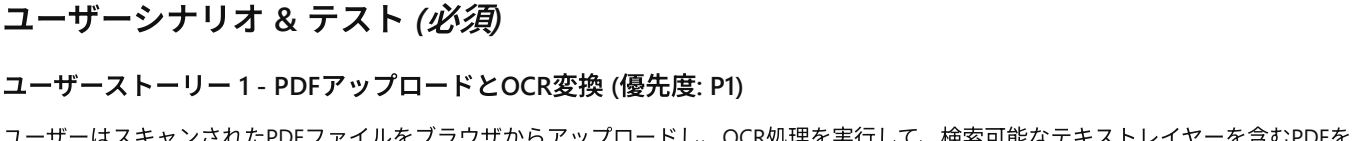
- OnnxOCR 2025.5: 高速CPU推論OCRエンジン (PaddleOCRベース)
- PaddleOCR 2.7.0.3: 高精度OCRエンジン (日本語特化モデル)
- pypdfium2 4.30: PDFレンダリング
- pypdf 5.1: PDF合成
- ReportLab 4.2: 透明テキストレイヤー生成
- Flask 3.0: REST APIサーバー

フロントエンド

- React 18.2: UIフレームワーク
- Webpack 5.104: モジュールバンドラー

複数エンジン並列処理

各PDFページで全選択エンジン (OnnxOCR、PaddleOCR) を並列実行し、平均信頼度が最も高いエンジンの結果を透明テキストレイヤーに採用。チェックボックスUIで複数エンジン選択可能。



ユーザーシナリオ & テスト (必須)

ユーザーストーリー 1 - PDFアップロードとOCR変換 (優先度: P1)

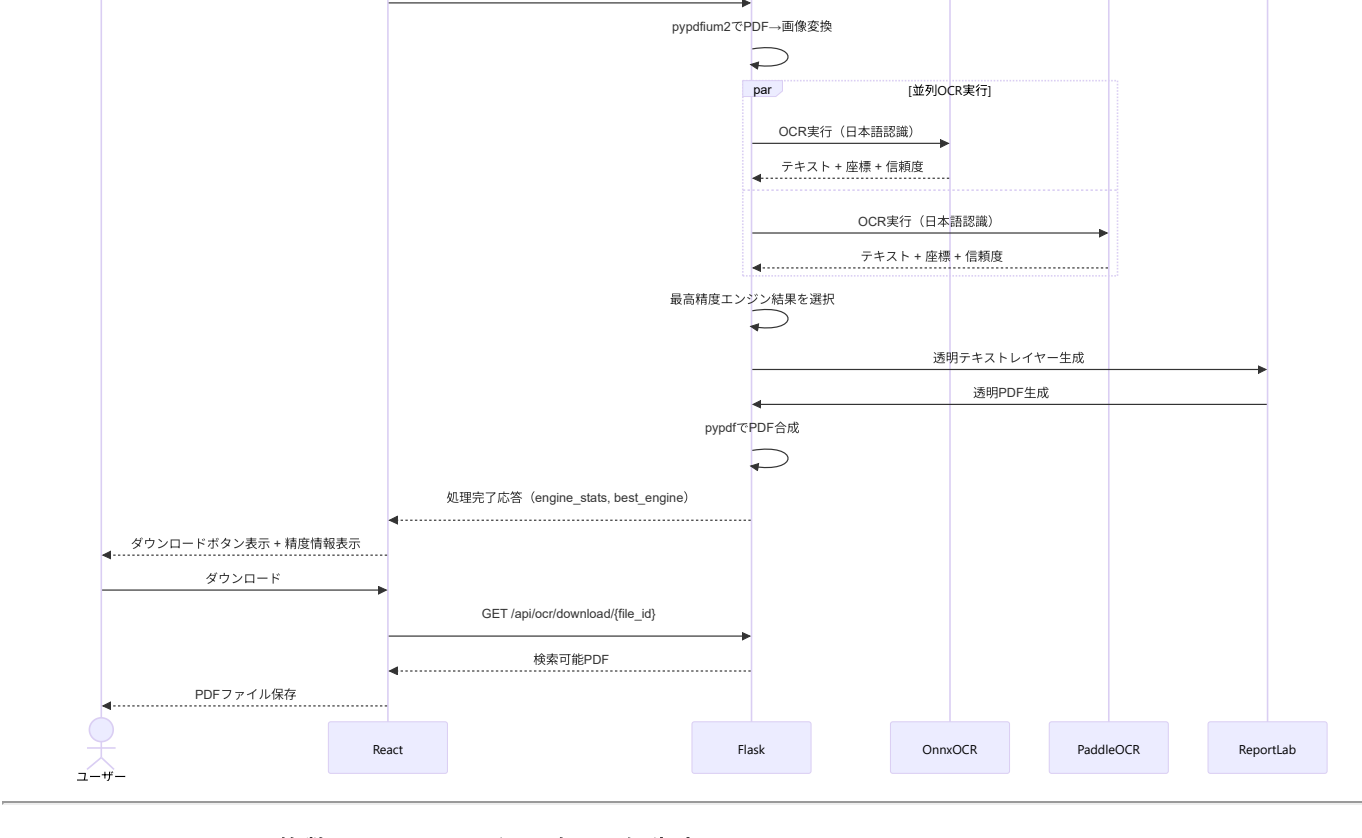
ユーザーはスキャンされたPDFファイルをブラウザからアップロードし、OCR処理を実行して、検索可能なテキストレイヤーを含むPDFをダウンロードできる。

この優先度の理由: アプリケーションの核心機能であり、他の全機能の基盤となる。この機能なしでは製品価値がゼロ。

独立テスト: 1つのPDFファイル (日本語テキスト含む、A4サイズ、1ページ) をアップロードし、OCR処理後、ダウンロードしたPDFでテキスト検索 (Ctrl+F) が可能であることを確認することで、完全にテスト可能。

受入シナリオ:

- Given ユーザーがアプリケーションのホームページを開いている、When 「PDFを選択」 ボタンをクリックし、スキャンPDFファイル (1MB以下、PDF形式) を選択する、Then ファイル名とファイルサイズが画面に表示される
- Given PDFファイルが選択されている、When 「OCR変換開始」 ボタンをクリックする、Then 処理進捗バーが表示され、OCR処理が開始される
- Given OCR処理が完了している、When 「ダウンロード」 ボタンをクリックする、Then 検索可能なテキストレイヤーを含むPDFファイルがダウンロードされる
- Given ダウンロードしたPDFをPDFビューアー (Adobe Acrobat Reader等) で開いている、When テキスト検索 (Ctrl+F) で文字列を検索する、Then OCRで認識されたテキストがハイライト表示される



ユーザーストーリー 2 - 複数ページPDFのバッチ処理 (優先度: P2)

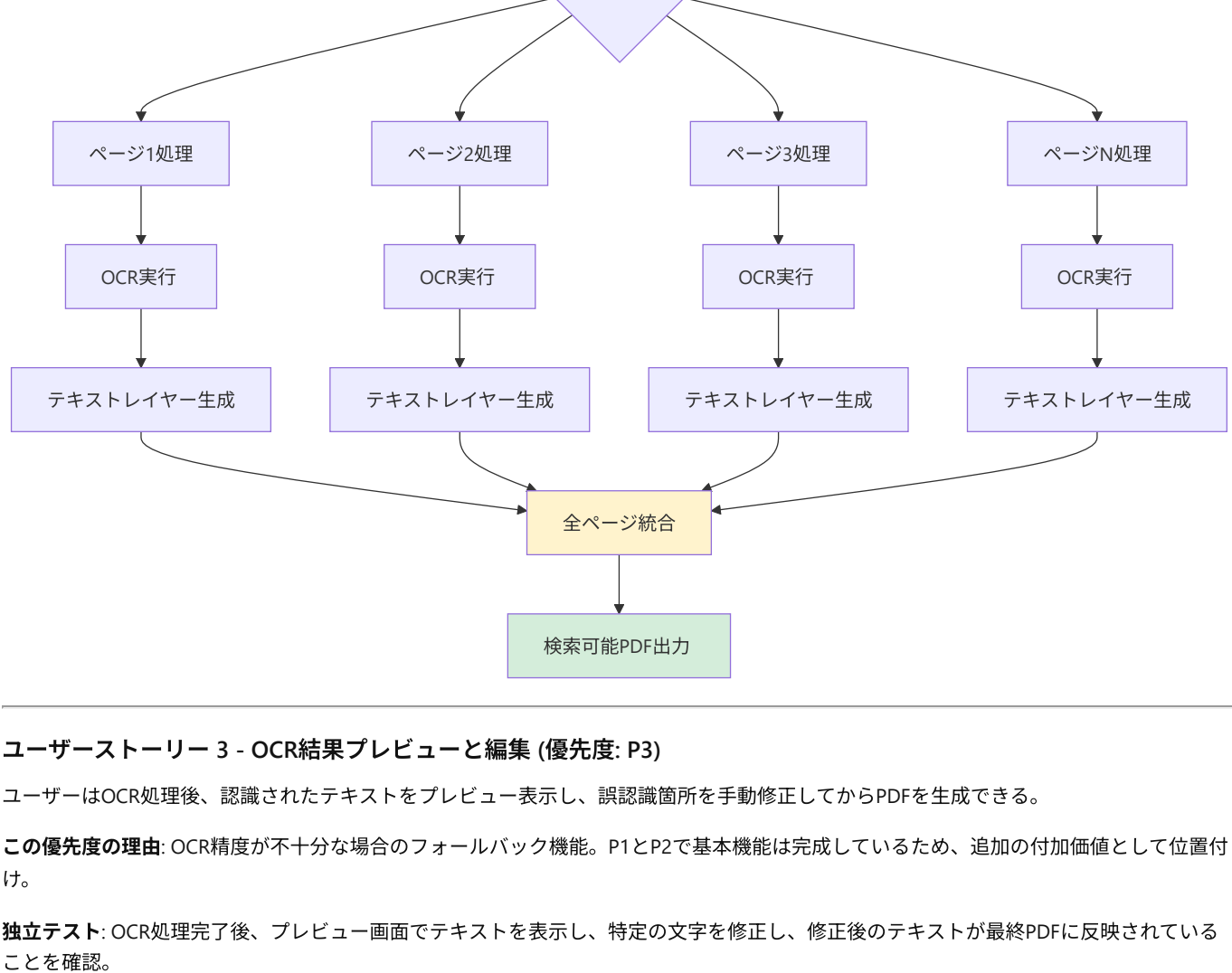
ユーザーは複数ページを含むPDFファイルをアップロードし、全ページに対してOCR処理を一括実行できる。進捗状況がリアルタイムで表示される。

この優先度の理由: 単ページ処理 (P1) が動作すれば、ユーザーは1ページずつ処理することで回避可能。しかし、実用的なユーザー体験には複数ページ対応が不可欠。

独立テスト: 10ページの日本語テキストを含むPDFをアップロードし、全ページがOCR処理され、ダウンロード後に各ページでテキスト検索が可能であることを確認。

受入シナリオ:

- Given 複数ページPDF (10ページ、合計5MB以下) が選択されている、When 「OCR変換開始」 ボタンをクリックする、Then 「ページ 1/10 処理中...」 のような進捗表示がリアルタイムで更新される
- Given 複数ページPDFのOCR処理中、When 処理が50%完了した時点、Then 進捗バーが50%を示し、「ページ 5/10 完了」と表示される
- Given 全ページの処理が完了、When ダウンロードしたPDFの任意のページを開く、Then 全ページでテキスト検索が可能である



ユーザーストーリー 3 - OCR結果プレビューと編集 (優先度: P3)

ユーザーはOCR処理後、認識されたテキストをプレビュー表示し、誤認識箇所を手動修正してからPDFを生成できる。

この優先度の理由: OCR精度が不十分な場合のフォールバック機能。P1とP2で基本機能は完成しているため、追加の付加価値として位置付け。

独立テスト: OCR処理完了後、プレビュー画面でテキストを表示し、特定の文字を修正し、修正後のテキストが最終PDFに反映されていることを確認。

受入シナリオ:

- Given OCR処理が完了している、When 「プレビュー」 ボタンをクリックする、Then 認識されたテキストが各ページごとに表示される
- Given プレビュー画面が表示されている、When 特定のテキストボックスをクリックして文字を修正する、Then 修正内容がリアルタイムで反映される
- Given テキストを修正した、When 「PDF生成」 ボタンをクリックする、Then 修正後のテキストを含む検索可能PDFがダウンロードされる

エッジケース

- 大容量PDF: 10MB以上のPDFファイルがアップロードされた場合、エラーメッセージ「ファイルサイズは10MB以下にしてください」を表示し、処理を中止する
- 対応画像ファイル: JPEG、PNG、TIFF画像ファイルがアップロードされた場合、自動的にPDFに変換してOCR処理を実行する
- 非対応ファイル: GIF、BMP等の非対応ファイルがアップロードされた場合、エラーメッセージ「対応形式: PDF, JPEG, PNG, TIFFのみ」を表示する
- 処理タイムアウト: 1ページあたり10秒以上かかる場合、タイムアウトエラーを表示し、ユーザーに再試行を促す
- 非日本語PDF: 英語やその他の言語のPDFの場合、OCRエンジンが多言語対応していれば処理可能。未対応の場合は「日本語PDFのみサポート」と表示する
- テキストが既に埋め込まれているPDF: OCR処理をスキップし、「このPDFは既に検索可能です」とメッセージを表示する
- 破損したPDF: PDFの読み込みに失敗した場合、「PDFファイルが破損しています」とエラーを表示する

要件 (必須)

機能要件

- FR-001: システムは、ユーザーがブラウザからPDF/画像ファイル (10MB以下、対応形式: PDF, JPEG, PNG, TIFF) をアップロードできること
- FR-002: システムは、アップロードされたPDF/画像ファイルを300dpi基準で正規化し、画像としてレンダリングできること
- FR-003: システムは、レンダリングされた画像に対してOCR処理 (日本語認識) を実行し、テキストと座標情報を抽出できること
- FR-004: システムは、OCR結果から透明テキストレイヤーを生成し、元のPDFに重ねて検索可能なPDFを作成できること
- FR-005: システムは、処理完了後、検索可能なPDFファイルをユーザーがダウンロードできること
- FR-006: システムは、複数ページPDFの処理進捗を「ページX/Y処理中」形式でリアルタイム表示できること
- FR-007: システムは、OCR処理中にエラーが発生した場合、エラー内容を明示的にユーザーに通知すること
- FR-008: システムは、フロントエンドをGitHub Pagesで静的ホスティングできること (SPAとしてビルド可能であること)
- FR-009: システムは、アップロードされたファイルを処理のためにローカル/指定バックエンドへ送信するが、処理完了後は一時ファイルを確実に削除し、永続保存しないこと
- FR-010: システムは、PDFファイル形式を検証し、非PDFファイルが選択された場合はエラーメッセージを表示すること
- FR-011: システムは、様々なページサイズ (A4, A3, Letter, Legal, B4, カスタムサイズ) に対応し、自動的に適切な解像度で処理できること
- FR-012: システムは、画像ファイル (JPEG, PNG, TIFF) を直接アップロードした場合、内部でPDFに変換してからOCR処理を実行できること

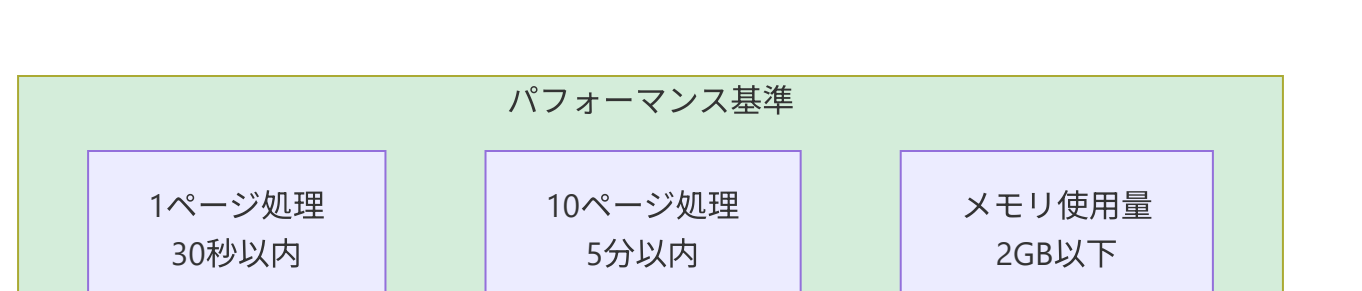
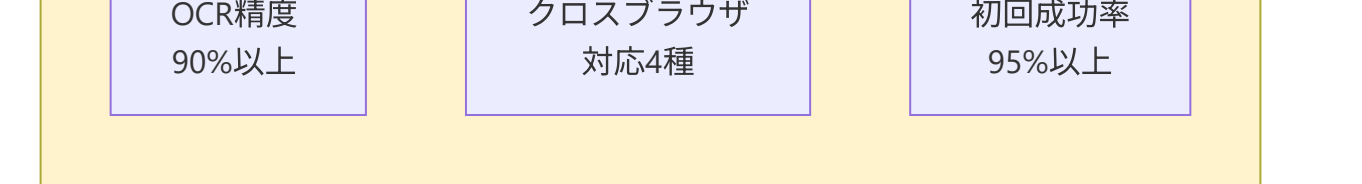
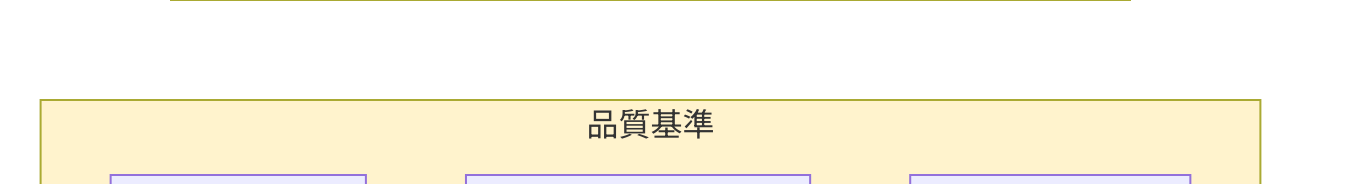
主要エンティティ

- PDFファイル: ユーザーがアップロードする入力ファイル。属性: ファイル名、ファイルサイズ、ページ数、MIME type
- PDFページ: PDFファイルを構成する個々のページ。属性: ページ番号、画像データ (300dpi)、幅、高さ
- OCR結果: OCRエンジンが出力するテキストと位置情報。属性: テキスト内容、バウンディングボックス (x1, y1, x2, y2)、信頼度スコア
- テキストレイヤー: OCR結果から生成される透明なテキストオーバーレイ。属性: テキスト、フォントサイズ、座標 (PDF座標系)
- 検索可能PDF: 元のPDFとテキストレイヤーを合成した最終出力ファイル。属性: ファイル名、ファイルサイズ、ページ数

成功基準 (必須)

測定可能な成果

- SC-001: ユーザーは、1ページのA4サイズPDF (日本語テキスト含む) をアップロードしてから、検索可能PDFをダウンロードするまでの時間が30秒以内に完了できる
- SC-002: OCR処理の精度が、日本語文字認識において90%以上の正確率を達成する (標準的な印刷品質のPDFを対象)
- SC-003: システムは10ページのPDFファイル (合計5MB) を処理でき、メモリ使用量がブラウザのタブあたり2GB以下に収まる
- SC-004: アプリケーションは、Chrome、Firefox、Edge、Safariの最新バージョンで正常に動作する (クロスブラウザ互換性)
- SC-005: ユーザーの95%が、初回利用時にチュートリアルなしで基本操作 (PDF選択→OCR変換→ダウンロード) を完了できる
- SC-006: アップロードされたPDFファイルは外部サーバーに送信されず、ブラウザ内でのみ処理されることで、プライバシーが保護される



前提条件

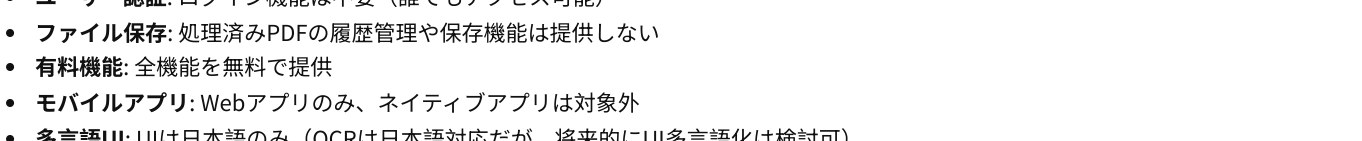
- OCR処理はPythonバックエンド (Flask + 複数OCRエンジン) で実行する
- 複数OCRエンジン (OnnxOCR、PaddleOCR) を並列実行し、最高精度の結果を採用する
- フロントエンドはReact SPAとしてビルドし、ローカル開発時は <http://localhost:8080> で動作する
- 画像入力 (JPEG/PNG/TIFF) はフロントエンド側でPDFへ変換し、バックエンドにはPDFとしてビルドして送信する
- GitHub Pagesはフロントエンドの静的配信先として利用できる (OCR処理は別途バックエンドが必要)

制約

- ファイルサイズ上限: 10MB (フロントエンド側の検証に準拠)
- 対応言語: 日本語のみ (将来的に多言語対応可能)
- 処理速度: 1ページあたり5秒以内 (P95パーセンタイル、環境依存)
- ブラウザサポート: Chrome 100+, Firefox 100+, Edge 100+, Safari 15+
- オフライン動作: ローカル実行時はオフラインでも利用可能 (依存パッケージ/モデルがローカルに存在すること)

採用技術スタック (実装準拠)

- バックエンド: Python 3.10.11 / Flask / OnnxOCR 2025.5 / PaddleOCR 2.7.0.3 / pypdfium2 / pypdf / ReportLab / OpenCV
- フロントエンド: React 18 / Webpack 5
- ホスティング: GitHub Pages (フロントエンドの静的配信)
- CI/CD: GitHub Actions



除外事項

以下は本機能のスクープ外とします:

- サーバーサイド処理: バックエンドAPIやデータベースは使用しない
- ユーザー認証: ログイン機能は不要 (誰でもアクセス可能)
- ファイル保存: 処理済みPDFの履歴管理や保存機能は提供しない
- 有料機能: 全機能を無料で提供
- モバイルアプリ: Webアプリのみ、ネイティブアプリは対象外
- 多言語UI: UIは日本語のみ (OCRは日本語対応だが、将来的にUI多言語化は検討可)

次のステップ: この仕様書が承認されたら、[/speckit.plan](#) コマンドで実装計画を作成し、技術的アーキテクチャを詳細化します。